

商品概要	設定日	2010年8月16日	信託期間	2025年8月18日まで	決算日	8月17日 (休業日の場合は翌営業日)
------	-----	------------	------	--------------	-----	---------------------

運用実績

【過去の運用実績は、将来の運用成果を保証するものではありません。】

■ 基準価額の推移 (課税前分配金再投資ベース)



※基準価額は信託報酬 (後述の「ファンドの費用」参照) 控除後のものです。

■ 基準価額と純資産総額

純資産総額	2,582(百万円)
基準価額	50,671円
前月末比	+1,311円

■ 1万口当たり分配実績 (課税前)

	分配金
第1期～8期	計 0円
第9期 (2019.8.19)	0円
第10期 (2020.8.17)	0円
第11期 (2021.8.17)	0円
第12期 (2022.8.17)	0円
第13期 (2023.8.17)	0円
設定来累計	0円

※分配金は投資信託説明書 (交付目論見書) 記載の「分配方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断等により分配を行わない場合もあります。

■ 騰落率 (課税前分配金再投資ベース)

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	5年	設定来
ファンド	2.66%	9.40%	18.55%	21.09%	3.69%	34.08%	406.71%

※基準価額の騰落率は、課税前分配金を再投資したと仮定した数値を用いています。

※当ファンドはベンチマークおよび参考指数を定めていません。

ポートフォリオの状況

■ 資産配分

	純資産比
株式	95.9%
キャッシュ等	4.1%
銘柄数	59

■ 市場別組入比率

	純資産比
プライム	82.4%
スタンダード	8.0%
グロース	5.6%
その他	-
合計	95.9%

■ 組入上位10業種

	業種	純資産比
1	サービス業	23.7%
2	情報・通信業	20.6%
3	電気機器	5.7%
4	化学	5.5%
5	建設業	4.8%
6	機械	4.7%
7	ガラス・土石製品	4.6%
8	繊維製品	4.2%
9	保険業	4.1%
10	小売業	3.5%

※業種は東証33分類に基づいています。

当資料ご利用の際は、最終頁の「ご留意いただきたい事項」をお読みください。

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書 (交付目論見書)」をご覧ください。

設定・運用:

インベスコ・アセット・マネジメント

[商号等]インベスコ・アセット・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第306号

[加入協会]一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

ポートフォリオの状況

■ 組入上位10銘柄

	銘柄名	業種	純資産比
1	F Pパートナー	保険業	4.1%
2	B I P R O G Y	情報・通信業	3.8%
3	M A R U W A	ガラス・土石製品	3.0%
4	ジャパンマテリアル	サービス業	3.0%
5	住信S B Iネット銀行	銀行業	2.9%
6	大栄環境	サービス業	2.9%
7	サイバーエージェント	サービス業	2.9%
8	エムアップホールディングス	情報・通信業	2.7%
9	セーレン	繊維製品	2.7%
10	共立メンテナンス	サービス業	2.7%

※業種は東証33分類に基づいています。

<組入銘柄について>

ネットワンシステムズ（7518）（情報・通信業）

国内最大手の専門ネットワークインテグレーターで、特に通信キャリアのネットワークインフラ環境の構築ビジネスに強みがあります。クラウドの普及に伴い、D X投資の需要が高まっており、今後の市場成長に期待しています。23年度は半導体不足による製品供給遅延や円安影響等により、一時的な利益悪化を招いたことや、市場が期待する受注額に届かなかったこと等から株価が大きく下落しましたが、24年度以降はマイナス影響の一巡に加え、過去に投資が行われたセキュリティ強靱化やG I G Aスクール案件の更新時期が訪れることから、今後の売上増加と利益率改善に期待しています。

※上記コメントは、ファンドの組入銘柄の紹介としての記載であり、売買を推奨するものではなく、また、今後の当ファンドへの組み入れを保証するものでもありません。

ファンドマネージャーのコメント

■ 市場環境

3月の国内株市場も堅調な動きが続きました。米国の消費者物価指数（C P I）が事前予想比で強めの伸び率となったことで米長期金利が上昇（債券価格は下落）、それを受けて米国ハイテク株が調整モードに入ったこと等から、月央までの日本株は比較的上値の重い展開となりました。注目された春闘では、大企業を中心に企業側から満額回答が相次ぐなど昨年を大きく上回る賃金上昇が確実となったこと等を受けて、3月の政策決定会合で日銀は2007年以來となる利上げを決定しましたが、緩和姿勢の堅持が改めて強調されたことなどから円安が進行、ドル円レートで151円台まで円が売られる場面も見られました。このような中、デフレ脱却や円安の進行を手掛かりに日本株は一気に切り返しの動きとなり、日経平均株価は再び史上最高値の更新を果たしました。物色動向としては、デフレ脱却期待などから不動産株が大幅高となったほか、原油高を受けて資源株や関連銘柄が買われるなど、バリュー株が人気となったことに加え、大型株に限らず、中小型株にも物色のすそ野が広がりました。

このような投資環境下、各指数の月間騰落率はT O P I Xが+3.47%、日経平均株価が+3.07%、東証グロース市場250指数が▲3.36%、ラッセル野村小型インデックス（配当込み）が+3.99%となりました。

■ 運用の状況

3月の運用では、割安感の薄れた銘柄の売却を行う一方、業績見通しの分析から高い利益成長が期待できる銘柄の買付けを行い、ポートフォリオの調整を行いました。

■ 今後の投資方針（作成日現在のものであり、市場環境の変動などにより変更される場合があります。）

今後の日本株市場につきましては、年初来の上昇率が、既に15～20%に達していること等からも、短期的には調整局面を迎える可能性はありますが、デフレからの脱却やそれを踏まえた日本企業の本格的な変化等を手掛かりに、米国等の内外の景気、物価や金融政策に加え、地政学リスクや政治情勢、あるいは金利、海外株式、為替動向等を睨みながらも、引き続き上値をうかがう展開が続くと想定しております。

国内景気は、短期的には物価上昇が個人消費や設備投資の足かせになっていますものの、春闘で明らかとなったように大幅な賃金上昇が見込まれる中、消費もそれに呼応する動きが期待されるほか、豊富な手元流動性に加え、深刻化する人手不足や収益力強化への対応を見据え、依然として投資意欲は旺盛であることから、設備投資に関しても年央にかけては徐々に上向きに転じるものと予想しています。また企業業績は、増益基調が維持されるだけでなく、増益業種が広がることを見込まれているほか、「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」の浸透により、今後も株主還元強化や収益性向上への取り組み等を発表する企業数は高水準で推移すると思われ、株価の下支え材料となることでしょう。新N I S A開始に加え、34年振りの史上最高値更新という話題が加わったことで、個人による金融資産見直しや株式投資への関心の高まりなども今後の相場には追い風だと考えており、引き続き中期的な観点から日本株に対する強気な見方を堅持しております。

以上の見通しの下、今後の運用では現在のポートフォリオ戦略を維持する基本方針に変更はありませんが、業績動向と株価バリュエーションを精査しながら、引き続き保有銘柄の入れ替えなど行う方針です。

ファンドの特色

- 主として、わが国の金融商品取引所に上場されている中小型株式に投資を行います。
- わが国の中小型株式の中から、高い利益成長が見込まれる企業の株式に投資を行います。
- ボトムアップ・アプローチにより、継続的に高い利益成長が見込まれる企業の株式を発掘し、成長性を勘案した株価の割安度などを考慮して、ポートフォリオを構築します。
- いちよしアセットマネジメント株式会社との投資顧問契約に基づき、時価総額が約100億円未満の企業の株式に関する投資助言を受けます。

ファンドのリスク

ファンドは預貯金とは異なり、投資元本は保証されているものではないため、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて受益者に帰属します。

基準価額の変動要因

ファンドは国内の株式など値動きのある有価証券等に投資しますので、以下のような要因により基準価額が変動し、損失を被ることがあります。

価格変動リスク

〈株式〉株価の下落は、基準価額の下落要因です。

株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績や財務状況、市場の需給などを反映し、下落することがあります。中小型株式は、一般的に業績の変化が大きく、株式市場全体の値動きよりも株価の変動が大きくなる傾向にあります。

信用リスク

発行体や取引先の債務不履行等の発生は、基準価額の下落要因です。

ファンドが投資する有価証券の発行体が債務不履行や倒産に陥った場合、または懸念される場合、当該有価証券の価格が大きく下落したり、投資資金を回収できなくなることがあります。また、投資する金融商品の取引先に債務不履行等が発生した場合に、損失が生じることがあります。

流動性リスク

流動性の低い有価証券等は、不利な条件での売買となる可能性があります。

市場規模が小さい、または取引量が少ない有価証券等については、市場実勢から期待される価格で売買できない場合や、希望する数量の一部またはすべての売買ができない可能性があります。

* 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

お申し込みメモ

購入単位	お申し込みの販売会社にお問い合わせください。 * 分配金の受け取り方法により、「分配金再投資コース」と「分配金受取りコース」の2コースがあります。
購入価額	購入の申込受付日の基準価額
換金価額	換金の申込受付日の基準価額
換金代金	原則として換金の申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。
購入・換金申込不可日	—
申込締切時間	原則として毎営業日の午後3時まで(販売会社所定の事務手続きが完了したもの)
換金制限	投資信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金申込には一定の制限を設ける場合があります。
信託期間	2010年8月16日から2025年8月18日まで
繰上償還	信託契約の一部解約などにより、投資信託財産の純資産総額が30億円を下回ることとなった場合などは、信託期間の途中で償還することがあります。
決算日	毎年8月17日(ただし、同日が休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回の決算日に分配方針に基づいて収益の分配を行います。 * 「分配金再投資コース」でお申し込みの場合は、分配金は税引後無手数料で再投資されます。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。公募株式投資信託は税法上、NISA(少額投資非課税制度)の適用対象であり、2024年1月1日以降は一定の要件を満たした場合にNISAの適用対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。配当控除は適用されます。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入の申込受付日の基準価額に、販売会社が定める 3.30% (税抜3.00%) 以内 の率を乗じて得た額
信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	日々の投資信託財産の純資産総額に 年率1.925% (税抜1.75%) を乗じて得た額とします。運用管理費用(信託報酬)は日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期間の最初の6カ月終了日および毎計算期末または信託終了のとき、投資信託財産中から支弁します。
その他の費用・ 手数料	<ul style="list-style-type: none">組入有価証券の売買委託手数料などは、実費を投資信託財産中から支払うものとします。これらの費用は運用状況などによって変動するため、事前に具体的な料率、金額、計算方法および支払時期を記載できません。監査費用、目論見書・運用報告書の印刷費用などは、投資信託財産の純資産総額に対して年率0.11% (税抜0.10%)を上限として、毎計算期間の最初の6カ月終了日および毎計算期末または信託終了のとき、投資信託財産中から支払うものとします。

* 上記、ファンドの費用の合計額については、保有期間などに応じて異なりますので、表示することができません。

販売会社(投資信託説明書(目論見書)のご請求・お申し込み先)

いちよし証券株式会社

(金融商品取引業者(関東財務局長(金商)第24号)であり、日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会に加入しています。)

受益権の募集・販売の取り扱い、投資信託説明書(目論見書)の交付、運用報告書の交付代行、分配金・換金代金・償還金の支払いおよび分配金の再投資に関する事務などを行います。

- 当ファンドの照会先 インベスコ・アセット・マネジメント株式会社(受付時間は営業日の午前9時から午後5時まで)
電話番号: 03-6447-3100 ホームページ: <https://www.invesco.com/jp/ja/>

【ご留意いただきたい事項】

当資料は、インベスコ・アセット・マネジメント株式会社が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は信頼できる情報に基づいて作成されたものですが、その情報の確実性あるいは完結性を表明するものではありません。また過去の運用実績は、将来の運用成果を保証するものではありません。本文で詳述した当資料の分析は、一定の仮定に基づくものであり、その結果の確実性を表明するものではありません。分析の際の仮定は変更されることもあり、それに伴い当初の分析の結果と重要な差異が生じる可能性もあります。投資信託は、株式などの値動きのある有価証券などに投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、投資元本を割り込むことがあります。これらの運用による損益はすべてご投資家の皆さまに帰属します。投資信託は預金や保険契約とは異なり、預金保険機構または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関は投資者保護基金には加入しておりません。当ファンドの購入に関しては、クーリングオフ(金融商品取引法第37条の6の規定)制度の適用はありません。当ファンドの購入のお申し込みを行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめまたは同時に販売会社でお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。